成果報告

歴史の研究とは過去との対話であるといわれる。いくつもの写真は、まさに過去の一瞬を切り取ったもので、多くのことを話しかけてくる史料となる。しかし、私たちにそれらが発する情報を聴き取る意思と力量がなければ、対話は成り立たない。差し込む光の角度を観察すれば撮影時刻が推定できること、同じ形の山影や木立、電柱は写っていないかと真剣に写真を見比べることなど、この演習を通じて学んだことは多い。話し相手が多くなれば、会話は弾み、新たな展開も生まれてくる。

村中写真が発見されたことの意義は、新史料であると同時に、既存史料の深い読み込みへと私たちを誘ってくれたことにある。さらに地域の方に空襲体験をうかがう過程で空爆前の京都幼稚園の建物写真と出会えたことも重要で、村中写真の価値を一層高めることになった。この演習の成果が、馬町空襲の歴史を語り伝える新たな資料となり、さらなる史料の発掘へと発展する契機となれば幸いである。

【写真提供】
村中 修氏　立命館大学国際平和ミュージアム　嶋本勢津子氏

●掲載写真の説明

(1)村中写真／空襲当時、馬町に近い今熊野椥ノ森町で「アサヒ写真」を経営していた故村中秀光さんが撮影したもので、秀光さんの孫にあたる村中修氏が遺品のネガフィルムを整理していたとき、「空襲」と書かれたネガフィルムケースを発見、そこにあった12枚の写真を1冊のファイルにまとめて「馬町空襲を語り継ぐ会」に贈呈したもの。本被害地図は、村中氏より提供をうけた写真の画像データを用いて作成した。

(2)立命館写真／地元で写真館を経営していた故長谷川哲也さんが撮影した14枚の写真で、知人の大野孝司さんが譲り受け、修道小学校の創立100周年を記念して同校へ寄贈したもの(『京都新聞』2007年1月12日)。これらは後に大野さんによる「修道学区馬町附近被爆跡写真説明書」と撮影場所を図示した住宅地図とともに立命館大学国際平和ミュージアムに寄託される。本地図では、その作成にあたり立命館大学国際平和ミュージアムより写真の画像データの提供をうけたので、立命館写真とした。

(3)嶋本写真／空襲当時、京都幼稚園に通っていた嶋本勢津子氏提供の写真、1943年頃のものとする。運動会の開会式において東を向き宮城遥拝しているところ。正面に職員室、その左奥に香雪院の山門が見える。右下に着弾地点（×）を回顧した「京女史口伝」（『東山タイムス』第61号、1961年4月10日）の略図を添付した。樹木や窓枠の形状、電柱の位置など爆撃前と爆撃後❸-Bとの対比を可能とした貴重な写真である。

(4)表紙の写真／上段の写真は地図の❻と同じ。下段は立命館写真の１枚で、地図の❿付近を南東向きに撮影したとされるもの。鳶口を持った人たちは当時の修道警防団員。

【協力】
馬町空襲を語り継ぐ会 http://vinaccia.jp/umamachi/ 石本喜代史氏
京都女子学園　原 寛　中村米穀店　嶋本商店（嶋本勢津子）　京都女子大学地域連携研究センター／生活デザイン研究所

【馬町空襲被害地図製作スタッフ】
京都女子大学文学部史学科日本史演習１Ｂ受講生
麻生 薫　五十嵐美里　内海なぎさ　金澤優花　黒澤洸奈　髙崎智紗子　竹田莉子　田中華琳　則藤千裕　橋本知佳
林 果鈴　平井里奈　深田詩央里　藤田歩実　壬生百香　山守紗世　若林美玖
京都女子大学大学院生ＴＡ・溝岡愛子　京都教育大学教職大学院生・井上愛美

■このパンフレットは京都女子大学平成29年度「学まち推進型連携活動補助事業」による「馬町空襲の歴史を学び語り継ぐ取り組み」(代表者・文学部教授 坂口満宏) の成果である。2018年1月16日　〖連携推進課 075-531-7080〗

馬町空襲の碑／2014年1月16日 修道自治連合会 "馬町空襲を語り継ぐ会" によって、京都市立東山総合支援学校敷地内に建立される。